

5.CCA 実態調査結果・・・3章

新潟市西区 U 地区

活動概要

- 活動期間：約8年（2016年～）
- 活動開始時の猫の頭数：20匹程度
- TNR活動：2016、2019年の2回で計13匹の猫を手術
- 現在の猫の頭数：2匹
- 活動資金：TNR活動は行政支援あり。他活動は活動者負担。活動者によって偏りがある。
- 活動場所：個人宅

地域概要

- 一戸建ての住宅が多い居住地域であり、市内中心部のベッドタウン。
- 坂が多く、地区の中でも高低差があり、新潟市で最も標高の高い場所である、K公園と隣接。
- 漁師の間で猫が飼われており、元から猫が多い地域。

活動きっかけ

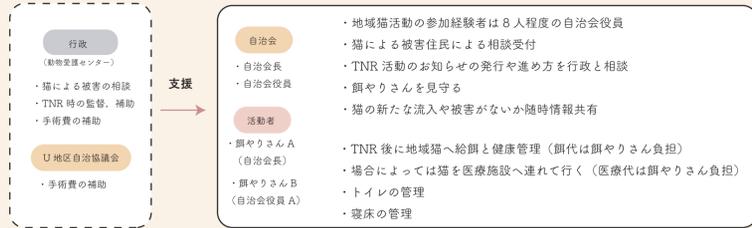
- 近隣で増加した猫による、生活への被害が多発したことで、2016年ごろから活動開始。

活動効果

- 猫の頭数が減り、猫による被害が減ったことで住みやすい地域となった。
- 地域内の非公認の餌やりさんをCCAに参加してもらったことで、「地域活動の中心人物」となり、人同士のトラブルも減り、地域から認められるようになった。

活動課題

- 地域活動としてCCAを地域住民へ理解してもらいたい。
- 活動者が全員高齢者であることから活動の継続性が難しいこと。
- 後継者もいない活動人数が不足していること。



新潟市西区 U 地区活動者構成

新潟市西区 N 地区

活動概要

- 活動期間：1年未満
- 活動開始時の猫の頭数：20匹程度
- TNR活動：2023年、2024年の3回で計25匹の猫を手術
- 現在の猫の頭数：まだ変化なし
- 活動資金：TNR活動は行政支援あり。他活動は活動者負担。活動者によって偏りがある。
- 活動場所：個人宅

地域概要

- 一戸建ての住宅が多い居住地域。
- 地域の西側はT中央公園（6.5万㎡）に隣接。
- 近年、地域内で空き家の増加が目立ってきている。

活動きっかけ

- 非公認の餌やりによって猫が増加。現在、20匹以上の猫が地域にいたことが把握され、U地区同様、猫による被害が多発したことで活動を開始した。

活動効果

- 発情期における猫の鳴き声による騒音被害がなくなり住みやすい地域となった。
- 餌やりさん宅に猫が集まることから、地域の人が遊びにくることもあり、コミュニティの拡充が見られた。

活動課題

- 活動歴が1年未満であることから、猫の管理ルールや活動体制がまだ整っておらず、人同士のトラブルがみられること。
- 餌やりさんが1人の高齢者であり、1人で10数頭の猫を管理しており、活動者の不足と活動の継続性が難しいこと。



新潟市西区 N 地区活動者構成

地域活動における CCA

宮城県石巻市 T 島

活動概要

- 活動期間：約10年
- 現在の猫の頭数：130匹
- TNR活動：ボランティアで訪れる獣医師によって今までで100匹以上の猫が手術している。
- 活動目的：一般的なCCAとは異なり、最終的に猫の頭数を減らすのではなく、観光客と島民と猫の共存を目指すことを目的に活動を行っている。
- 活動資金：観光客やボランティア団体などによって支援。
- 活動場所：「しまのえき」人と猫の交流場所

活動特徴

- 島の中心部に「しまのえき」と呼ばれる観光客休息所兼猫の居場所があり、猫との交流場所が設けられている。そのため、猫は人に対して友好的であり、ストレスなく自由に暮らしている。また、活動地域である「しまのえき」は、人の居住地域が離れていることで人も猫もストレスなく生活しており、共存共栄の関係性が保てていた。

地域概要

- 宮城県東部の牡鹿半島の西部に位置。
- 気候は温暖で、寒暖の差が少なく冬季間でも月平均気温は0℃以下になることはない。
- 島内には4本脚の動物は猫のみであり、猫を扱う動物の生息は確認されていない。
- 拠点となる「しまのえき」周辺は居住地域がなく、木々に覆われており、猫たちが自由に暮らしている。

活動効果

- 猫を管理するようになり、猫の頭数を維持・管理でき、猫を管理しやすくなった。
- T島の観光名所ができ、観光業として盛り上げることができた。

活動課題

- マナーの守らない観光客と島民間で口論になるトラブルがたびたび発生している。
- 猫のことを良く思っていない島民が猫との交通事故を起こしてもそのまま放置する事例が発生している。
- 猫の頭数が多いことから、猫風邪が流行すると、病気が蔓延してしまうこと。



T島しまのえき構成

観光地における CCA

CCA 実態調査まとめ

地域活動における CCA

目的：最終的に猫の頭数を減らす。
活動場所：個人宅
広報活動など：定期的な活動報告は行われておらず、地域住民が活動を知る機会がない。

違い

観光地における CCA

目的：猫の頭数を維持・管理するため。
活動場所：人と猫が交流できる場所。猫の居場所の環境整備がされている。
広報活動など：SNSなどを積極的に利用しながら活動や猫の様子を発信している。

CCA 地域の共通点

対象調査地において、昔から猫の頭数が多い傾向があり、要因として、漁港があったことや近隣の地区公園から地域へ猫の流入によって猫の頭数が増加していた。また、地域特性として、どちらの地域も地域内で高低差があり、坂が多い傾向が見られた。

CCA の効果

- 地域内の「非公認の餌やり」が地域活動の中心人物となり、住民間のトラブルも減り、地域でのコミュニケーションが上手くいくようになった。
- 猫が集まる場があることで、猫が好きな人や興味のある人が集まるようになり、コミュニティの広がりが見られた。
- 猫が居ることで親子で地域を散歩するきっかけとなり、健康意識や地域防犯としても役に立っていた。

CCA の課題

- 活動者不足や後継者不足による、活動の継続性
- 活動者の高齢化
- 「餌やりさん」の活動負担の偏り
- 広報活動不足による、地域住民の理解不足や知識の偏り
- 猫の管理ルールの徹底不足
- 活動場所の整備